



あなたも雷別地区での森林再生に参加しませんか

森林再生は何十年もかかる作業です。長い年月をかけて、大きく成長する樹木、枯れてしまう樹木、いろいろな樹木が混ざり合って森林ができています。

こうした森林づくりは、できるだけ市民の皆さんの参加により行いたいと、当ふれあいセンターでは考えています。

そのため、雷別地区での森林再生をより深く知っていただく機会として、市民の皆さんとともに森林再生個所の見学や種子採取、苗木づくり等の体験型森林づくり活動を行っています。

雷別で採った広葉樹のタネから育った小さな苗を、ご自宅の庭で育てるお手伝いをしていただけませんか？
3年くらい育ててから雷別の森林に植えます。



協力者募集中



市民参加が可能な活動内容として次のようなことを考えています。
[森林づくり]: タネの豊凶調査・タネの採取・苗木づくり・植樹など
[モニタリング調査]: 樹木の成長調査・草木観察・野鳥観察など

ボランティアとして参加する「雷別ドングリ倶楽部」の会員を募集しています。



林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

〒085-0825 釧路市千歳町6-11
TEL.0154-44-0533・050-3160-5787 FAX.0154-41-7305
E-mail:h-kushiro_f@rinya.maff.go.jp
[ホームページ] <http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku>

再生紙使用



雷別地区国有林での森林再生

みんなて新しい森林をつくらう



林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

雷別地区の森林再生は、大切な地域の自然環境をみんなで守り・育てて行く取組です。

シラルトロ湖の最上流部にある雷別地区国有林には、林齢(森林の年齢)70年を超える森林がたくさんあります。しかし、平成12年にその一部のトドマツ林が立ったまま枯れてしまう立枯被害にあい、その後、木が無くなってしまった箇所が多くあります。森林がないと雨や雪が直接地面にあたって、土砂が流れてしまったり、土壌が水を貯える力を弱くしてしまいます。シラルトロ湖に注ぐ、シラルトロエトロ川はほ

とんど河川改修がされておらず、その上流部には自然のままの湿原が数キロにわたって続いています。そして、その自然環境は鳥類や動物、魚類や昆虫など多様な生き物たちのすみかとなり、下流部の釧路湿原へと続いています。このような多様な自然環境をできるだけ保全しようということから、雷別地区国有林の木がなくなってしまった箇所を、多様な森林の状態に戻す、森林再生を実施します。

雷別地区につながる自然環境



上流

シラルトロエトロ川上流

雷別地区エリアの森林について
森林再生を行う雷別地区(293林班)の立ち枯れたトドマツ林の近くには、ダケカンバやミズナラやハルニレなどの天然の広葉樹林が広がっています。樹木が無くなると、日当たりが良くなり、ササが元気になって樹木の稚樹やいろいろな草花が植物が育ちにくくなっています。



雷別地区(293林班)

美しい森がよみがえるといいね



雷別地区の
現在の状況



立ち枯れたトドマツ

目標とする森林はいろいろな 広葉樹からなる多様な森林です。

天然の森林では、大きな木があったり、小さな稚樹(子どもの木)があったり高さや太さ、そして木の種類もさまざまです。こうした森林には、植物だけではなく、さまざまな生き物たちも入り込んできます。雷別地区の森林再生の目標は、さまざまな高さや大きさのいろいろな種類の広葉樹がある森林です。

こうした多様な森林の再生には、できるだけ人が手をかけず自然が持つ力を発揮させるような方法をとります。人が植樹をしなくても、木の種子が芽を出すことが可能なところでは自然にまかせる「天然更新」という方法をとる、現状のままでは稚樹が生えにくいところでは「人工植栽」を行います。



ササに覆われた地表

森林再生の
イメージ



雷別天然林



カケス



フクドジョウ



アカゲラ



キタキツネ



エゾリス



ミヤマクワガタ



森には色々な
動植物が共生して
いるのね



森林再生の方法

なるべく自然の力で再生していくことにまかせよう、という考えから次のような方法で再生を行っていきます。



1 そのまま保全するところ

稚樹や小径木(細い木)がまとまって生育していて、手をつけなくても再生が可能と思われる場合は、そのまま保全します。



2 天然更新にまかせるところ

稚樹や小径木がまとまって生育していないで、近くに母樹(種子をつける樹木)となる樹木がある場合には、天然の力で苗を育てます。

3 人工植栽を実施するところ

稚樹や小径木(細い木)がまとまって生育していないで、近くに母樹となる樹木がない場合には、人工植栽を実施します。

天然更新とは?

まわりにある樹木から自然に落ちるタネを育てて、森林にしていく方法です。地面に落ちた樹木のタネが発芽して成長しやすいように、ササをはぎ取る作業などを行います。

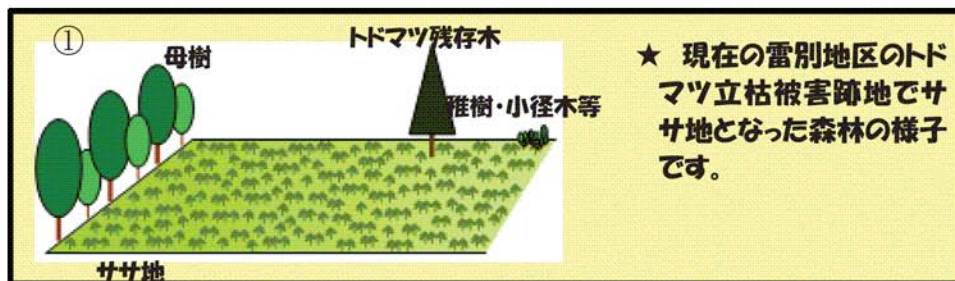


人工植栽とは?

人の力で苗をつくり、再生する森林に植える方法です。地域にあった森林の状態へ再生するために、雷別地区の樹木から採取したタネを使って苗を育てます。



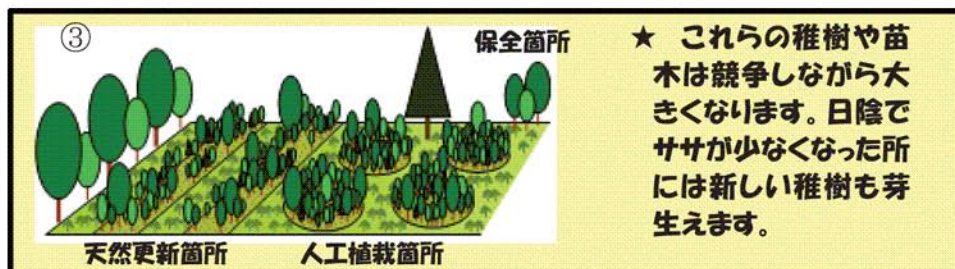
雷別地区の森林再生は、「そのまま保全するところ」、「天然更新にまかせるところ」、「人工植栽を実施するところ」を組み合わせて行います。その結果、下の図のように森林が再生していくのではないかと推測しています。



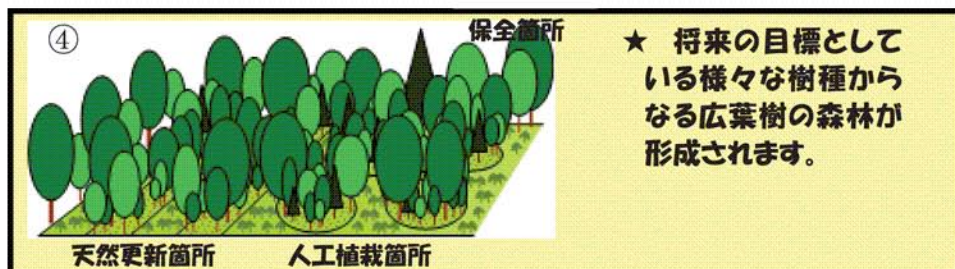
★ 現在の雷別地区のトドマツ立枯被害跡地でササ地となった森林の様子です。



★ 母樹の近くのササを取り除いた跡に自然にタネが落ちて芽が出た稚樹や植栽した苗木が育ち始めます。



★ これらの稚樹や苗木は競争しながら大きくなります。日陰でササが少なくなった所には新しい稚樹も芽生えます。



★ 将来の目標としている様々な樹種からなる広葉樹の森林が形成されます。

この自然再生事業の実施状況や各種調査結果などについては、釧路湿原自然再生協議会HP、北海道森林管理局HP等によりお知らせしていきます。

